

## 登山学校

## 第8回 「雪山入門講座」第18期登山学校受講生 長谷川 操 記

2014. 1. 18 (土) 机上講習9.30~15.00与野下落合コミュニティセンター

机上講習はプロジェクターを活用し、小松講師の解説、高橋講師の道具の使い方で行われました、天気図の見方、そして明日の天気は、一時雪が降り山の上では、-12度、風速20m、体感温度は相当低いと予報、山装備の靴、ピッケル、アイゼン、ビーコン、着衣の使用方法、歩き方、雪山のリスク等の説明があり、最後にビーコンを使い遭難者捜索の訓練全員で行ないました、明日は初めての雪山体験となります。

1. 19 (日) 晴 10.30~15.30 実技 雪山体験 栃木県 那須岳 茶臼山

初めての雪山、ピッケル、アイゼン、目出し帽、ゴーグル、グローブ、スパッツ着衣と何事も始めてづくし、那須のお菓子工場に着衣、道具を身につけ再びバスに乗り、ロープウェイ駐車場に着き、さあ出発となったが、ピッケルの安全保護具がつけたまま、指摘うけ素手で取外したら手が寒さで痛くなる、もう昨日の講習を忘れていて、ピッケルを使い耐風姿勢の訓練をし、仲間5人が前後を講師挟まれ出発駐車場を過ぎた辺りから雪があり鳥居まで来たら鳥居が3分の1しか出ていない、風雪が吹雪くなか壺足、キックステップで登って行く、前の人の足跡を踏みながらというが、崩したり、スッポ抜けたり、登りはキックステップで蹴りを入れというが、うまく蹴りが入らずズリ落ちる、雪景色を見ながら歩く余裕もなく、前の人に着いて行くのが精一杯、自分は気がつかないが睫毛が凍っているとされる、

本格的な登りに入ったら強風が唸りをあげ吹雪いており、寒さもきつくなりなり止まっていると体が冷えてくる、時々強風が吹き重心を低くしピッケルを雪中に差込体を支えないと飛ばされてしまうほどの強風にさらされる、途中でアイゼンを履くこれがまた薄手袋でやるので、手が冷たく痛くなる、ごうごうと唸る強風の中ピッケルで体を支えながら第1到達点に着く、集合写真を撮り即引き返す、強風20mと-12度、体感温度30度では、ここまでで限界とのことで下山する、鳥居近くの休憩所でアイゼン外し、吹雪く寒い中で昼食をし、弱層体験見学し、坂で腰滑りこれまた気分爽快、さらにラッセル体験をし、バス到着、ホットする、初めての雪山体験で、きつい面もあったが終わって見れば、気分爽快、また、雪山体験したい。

## 登山学校

## 第8回 「雪山入門講座」 第18期登山学校受講生 福島 秀佳 記

「机上講座」 1月18日(土) 午前9時半～午後3時 場所・下落合コミュニティセンター  
小松運営委員、高橋運営委員から次の内容で「雪山入門講座」の講義があった。

- ① 山のシーズン、雪山の楽しみ方
- ② 雪山の装備
- ③ 雪山の計画、計画書作成の重要性
- ④ 雪山の初歩技術、雪道の歩き方
- ⑤ 雪山のリスク
- ⑥ 雪崩について

初心者が雪山に入る時は、3月～5月ごろに経験を積むのがよいとのこと、決して1人では行かないこと、経験者と一緒に行くこと。また、二つ玉低気圧による遭難事故が多発しているので事前の天候確認が必要とのこと。

登山靴の種類、ピッケルの名称・種類、アイゼンの種類、ワカンとスノーシュー等の説明があった。ウェアについては「汗の処理」「速乾性」「保温力」を考慮した重ね着が重要とのこと。また、手袋については三層とし、飛ばされない工夫、予備の手袋の持参等の説明があった。雪崩に遭遇した時のビーコンの使用方法について、三人ずつのグループで実際に使って体験した。ピッケル、アイゼン等装備を持っていない人は、運営委員から借りて、翌日に向けて装備を整えた。その後、翌日の雪山実技に向けて四班に分かれ、班の役割分担を決め、終了とした。

「雪山実技」 1月19日(日) 栃木県・那須岳 晴れ

一班のメンバーは、運営委員が伊藤さん、八木原さん、班長に山本さん、他に榎本さん、高林さん、手塚さん、福島の五人。

朝6時半に柳瀬川を出発、7時に北浦和を經由して、9時15分に那須のお菓子の城に到着。バスの中で小松運営委員から、今日の那須岳の天候を事前に確認してきたかとの質問に、生徒の中で確認してきた人が2名だけだったことに関し、昨日の講義がいかされていないことに注意を受けた。

お菓子の城駐車場で装備を整え、大丸駐車場(標高1350メートル)へ車で向う。風が強く、氷点下マイナス3度ぐらい。10時20分、大丸駐車場を班毎に出発。那須ロープウェイ山麓駅、峠の茶屋駐車場を通過し、登山道入口(登山指導所の建物のある所)に11時半に到着。途中、急な斜面の登りでキックステップを使いながら登る体験をする。ここでアイゼンを付ける。氷点下マイナス10度。

登山道入口を11時50分に出発し、峰の茶屋跡へ向う。途中、風が強く、何度も耐風姿勢で体が飛ばされないようにする。午後一時ごろ峰の茶屋跡(標高1720メートル)に到着。非常に風が強く、風速20メートルぐらいあったのではないかとすぐに来た道を下山。

登山指導所の建物があるところで、雪崩の原因である弱層のテスト、確認を行う。

午後三時、全員無事に大丸駐車場到着。バンザイ。お疲れさまでした。

今回の雪山実技で感じたことの一つ目は、自然の凄さ、そのための天候の事前確認の必要性。二つ目は、装備の重要性、特に手袋の装備をしっかりと整えること。三つ目は、寒いなか、手袋をしたままでアイゼンを早く付けることの重要性を強く感じた。今後は、この経験を生かし雪山登山を楽しんでいきたい。

以上